吉田有理　福島民報　連載コラム

圏外のアンテナ

［ヤワなお尻］の巻

先月、所用でバルセロナとパリにいくことになった。

パリの暴動が心配だったので、ホテルは慎重にモンパルナスの古宿を選んだ。だが、それ以外の準備はケセラセラ。いざとなったら、きっと何とかなるだろう。

だが、徐々にふくらんできた不安が１つ。それは１１日間のウォシュレットのない生活のこと。

このような尾籠（びろう）な話を、上品な福島民報にのせてもよいの？　と迷いつつも、まいっか！　で、書いてしまうのだが……。

８０年代に「おしりだって、洗ってほしい」という名コピーとともに、一気に日本中に広まったウォシュレット。

今世紀の初めには、あのマドンナが来日時に「温かな便座に会いに来たわ〜」と発言し、このまま世界標準になっていくのではないか？　と思わせた。

だが、海外でウォシュレットはまだまだ普及していない。ヨーロッパ在住の友人にも聞いたが、「ホテルにも美術館にも、絶対に付いてないよ！　」とのこと。

それはマズい。世の中には、必需ではないが必要なものがある。痔主（じぬし）でなくても、便秘でなくても、温かさと清らかさはどうしても欲しい……。

そこでアマゾンで「携帯用　ウォシュレット」を検索。評判のいい、１０㎝ほどのノズルのついた、容量が４５０mlのポリプロピレンのボトルタイプのやつを１０００円くらいで購入した。

デザインはパッとしないが、中にお湯を入れて、キュッキュッと手で押すだけの簡単さ。案の定、本物のウォシュレットには一度も出会えなかったので、旅の間持参して大正解であった！

……なんて、単純に喜んじゃってよいのだろうか？

今後、屈強なヨーロッパ人と様々な分野で渡り合うとき、われわれのこのお尻の（精神の）ヤワさが致命傷にならなければいいのだけれど…。

自分のお尻を棚にあげ、こみあげてきた心配が、わたしの胸をざわつかせた。

=２０１９年３月８日掲載=

1930年代のモンパルナスの面影が残る古宿